



コスタリカ共和国 草の根技術協力

「生活改善アプローチによる農村開発モデル事業活動報告」

No. 28

2018.8.17

～試行錯誤と継続は力なり～

NPO 法人イフパット 研究員 宮崎 雅之  
(現地調整員/生活改善ファシリテーター)

Hola!早速ですが、現地での活動について、紹介させていただきます。

**小学校での生活改善アプローチ始動:** 以前紹介させて頂いた小学校での活動ですが、副市長のベンハミン主導で着実に進んでいます。現在までに、5回の授業が終了し、その中で、私の一日の活動(好きなこと、嫌いなこと又は強制されていることに分類)、現状分析マップ(学校版、自宅の自分の部屋版)、自己分析ツール(自己肯定感向上)等のワークショップを実施しました。対象の小学校は3校で、旧サンタリタ小学校(全校生徒12名が対象)、新サンタリタ小学校(5年生18名対象)、セバディージャ小学校(5年生17名対象)となっています。旧サンタリタ小学校は生徒数が少ないため、全学年を対象に実施しています。

各学校で特徴が異なり、新サンタリタ小学校の生徒はとても活発で発言も多いのですが集中力があまりありません。セバディージャ小学校も積極的で元気ですが、比較的集中するところは集中するという特徴があります。そして、全学年を対象としている小さな小学校、旧サンタリタ小学校は非常に集中力があり、様々な意見が授業中に見られます。実際に学校の敷地内で好きなところ嫌いなところの分析を行った際に、敷地内の庭にあるテーブルが好きだという結果が出ました。しかし、庭にはテーブルが2つあり、もう一つのテーブルは好きではないという結果が出ました。なぜでしょう??

掘り下げて話を聞くと、好きではないテーブルには日陰を作る木が周りになく直射日光が当たり、暑くて皆で集まってお喋りをするには適してないとのことでした。そこで、ファ

シリテーターがそれに対して出来ることは？と促すと木を植えるという答えが返って来ました。その日はそこまで授業は終了したのですが、約一ヵ月後に学校に訪問すると、そのテーブルの周りに小さな木の苗が植えてあったのです。ちょうど、緑の日という行事があり、そのタイミングでテーブルに影を作るような木を植えたようです。タイミングの関係もありますが、気づきを促し、それが改善行動となりました。副市長も実際に植えられた木を見てびっくりしていました。

まだまだ課題の多い小学校での生活改善アプローチ、例えば教材の改良、先生が活動にあまり興味を示さないこと、副市長が多忙で度々授業が延期になること等々ありますが、まずは初めての挑戦ということで、全ての授業を完結させて、反省会を開き、第二章に繋がようと日々奮闘しています。



写真1. ワークショップ:私の一日の活動



写真2. ワークショップ:現状分析マップ

**セバディージャ・スルの第三回集落清掃活動**：グループ活動として、3回目の清掃活動が実施されました。参加者は約15名で、午前中いっぱいかけてゴミ袋を持って集落に散乱しているゴミ拾い、各家庭に放置してある粗大ごみの回収の呼びかけ（WPP協力の下）を行いました。その後、参加者全員でフローリーさん宅にて昼食を取り、お互いの労をねぎらいました。今回は、隣村のサンタリタ集落の生活改善グループのイサベルさんも参加してくれました。少しずつ、周囲の住民や集落を巻き込み始めました。

本活動は3回目ということもあり、1回目とは全く様相が変わっていました。計画性、組織性、効率性が向上していました。昨年実施した1回目はファシリテーターが主導でグループを引っ張っていましたが、3回目はほぼ生活改善グループが主導し、実施前に会合を開き、手書きの実施計画書が作成されました。これには、ファシリテーターチームも驚かされました。私自身も見習わなければならないと感じましたし、ファシリテーターにも見習ってほしい部分です。

リーダーのエルサさんが言うには、1回目は初めてで手探りで本当にとりあえずやったという感じで大変だった。でも、大変だった第一歩を踏み出したおかげで周囲の住民から「今度はいつ清掃活動やるの？」という質問が来るようになり、2回目を実施した。そして、2回目を実施した後も「今度はいつ清掃活動やるの？」という声があり、今回の3回目に至った。この3回目は現在、別のグループ活動として進めているバイオ庭園の計画書を参考にして、清掃活動においても計画書を自分たちで作成してみようという話になり、作った。その結果、何時、誰が、どこで、何をするかが明確になり、より短時間ですべての作業が効率的に終了した。と語っています。この成功体験を生かし、次回はさらにたくさんの住民を巻き込んで清掃活動を行いたいと意気込んでいました。



写真 3, 4. 集落で清掃活動



写真5. 一働き後の昼食

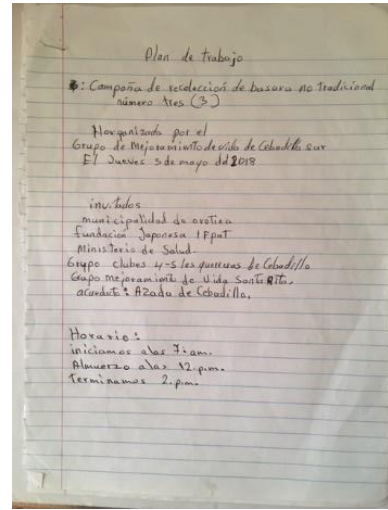


写真6. 活動計画書

**短期専門家派遣：**長野県松川町産業観光課農業振興係の矢沢係長にファシリテーターチームの普及力向上のため、コスタリカに短期専門家として来て頂きました。生活改善グループ会合への参加、家庭訪問を通してのグループ員の活動の成果の確認はもちろんのことですが、今回はファシリテーターの能力向上に尽力して頂きました。行政職員として、どのようにグループ員と接するのか、またどのような役割を果たすべきかという話を通して、グループ員の主体性の醸成・自立を促す術について指導して頂きました。また補助金の適用についても、ただ単に市が補助金を与えて終わらせるのでは、その後も背中を押ししたり、お尻を叩いたりと後方支援の重要性についても話して頂きました。

ちなみに、講義の中で一番ファシリテーターが驚いていたのが、日本の市役所の役割です。コスタリカの場合、各省庁（保健省、農牧省、教育省等）の支所が市ごとに存在しています。そのため、日本では保健分野、農業分野、教育等の行政サービスを市役所が担っていることにびっくりしていました。まだまだ中央政府の権限が非常に大きいため、将来的には地方分権化を進めることが理想だという意見も出ていました。



写真7. オロティナの市長、副市長、計画担当者との会議

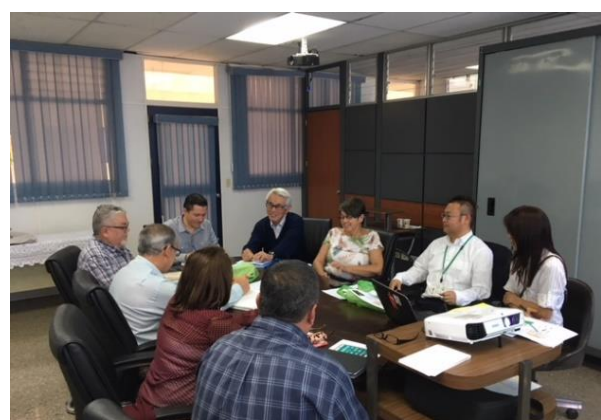


写真8. 様々な質問が飛び交った農牧省本省での講義